

目次  
—  
—  
人類の最大犯罪は戦争

第一話 不戦のための発言 …………… 17

序言 戦死者の声の代弁なしの平和運動は皆ウソ …………… 19

一、いま地球を滅ぼしつつあるものは何か …………… 22

その一 刻々と迫る核戦争の足音 …………… 22

その二 また高まる軍拡路線、死への足音 …………… 26

二、戦争の「魔性」性 …………… 34

その一 人心に刻み付ける戦争の罪、それが人を鬼にする …………… 34

その二 死んでも消えない怨念、それが人類を殺す …………… 38

三、近代科学の「魔性」性 …………… 43

四、いま、地球を救うことの出来るものは何か …………… 54

第二話 命は一つきりのもの

——数えてはいけない……………65

一、現代版ノアの方舟……………67

二、三発目の原爆は日本に落ちる……………70

三、神風は吹いていた……………74

四、死者の知恵……………85

五、アインシュタインの絶望……………89

第三話 人間よ、平和の種子に変わろう

——不戦と非武装の種子に……………99

一、いま平和問題に無関心な親は子供殺しの罪を犯すことになる……………101

二、「反核・軍縮」平和運動はなぜ不毛か……………113

第四話 生の断念 〈人よ、動物からの脱皮を〉……………125

一、日本の危機……………127

二、戦後文学の検証……………139

三、生を断念した死刑囚について……………147

四、この「生の断念の時代」に文学は何をすることが出来るか……………153

注……………159

(注1) 三冊の詩集について。最初の詩篇「同年の兵士達へ」……………160

(注2) 詩篇「軍靴のうた」、人の怨念のうた。……………164

(注3) 詩篇「戦い終らず」、愛する故の亡国のうた。……………166

(注4) 詩篇「平家蟹」、額のシワの数ほどに人を殺す。でも消えない眉間の皺。……………169

(注5) 詩篇「二つの魂」、広島原爆で死んだ四歳の男児が歌うさまよいの歌。……………172

詩篇「戦争で死んだ姉」、みごもったまま死んだ姉。そのシルエットに導かれて不思議の数々。……………175

詩篇「原爆忌に」、原爆投下責任論の原点を探る。……………179

〈追記1〉 詩篇「鴛ペン——一九九九年のために」、予言の詩。原罪説に立つメシア信仰を修正する詩。……………185

〈追記2〉 詩篇「むなしい戦から帰らぬ友へ」、特攻戦死者から警告のメッセージ。……………190

扉原画 熊谷直人